

伊勢・三河湾貧酸素情報(H29-6号)

平成29年7月26日

愛知県水産試験場 漁場環境研究部

平成29年7月25、26日に伊勢湾、7月25日に三河湾において貧酸素水塊の調査を実施しました。その結果は以下のとおりです。

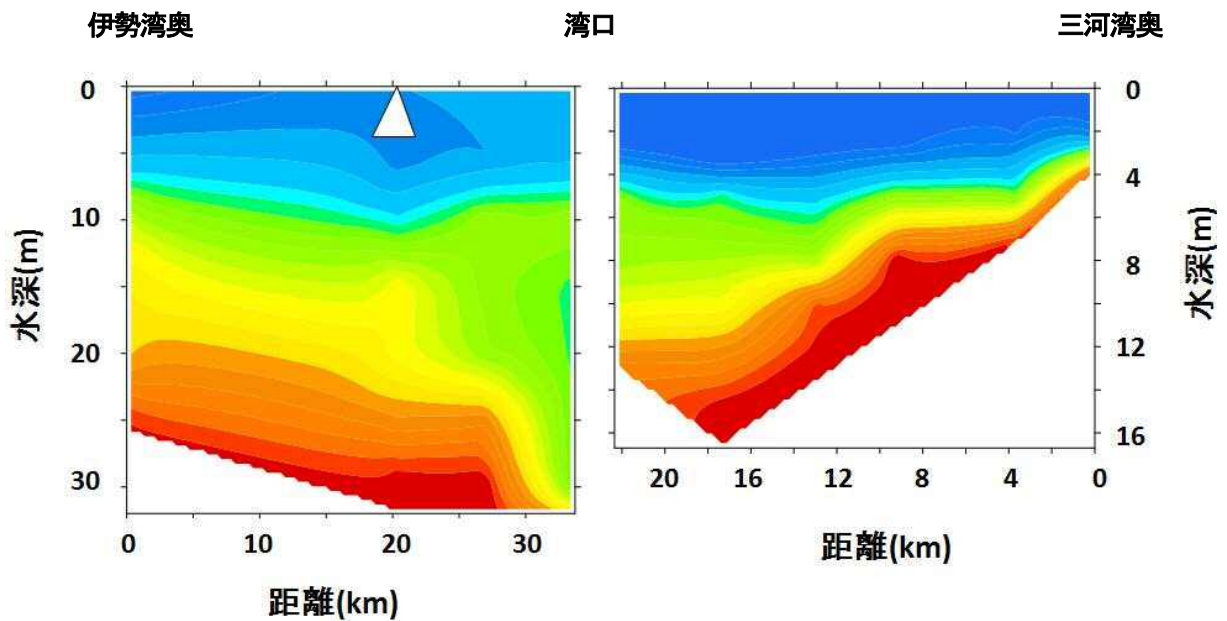
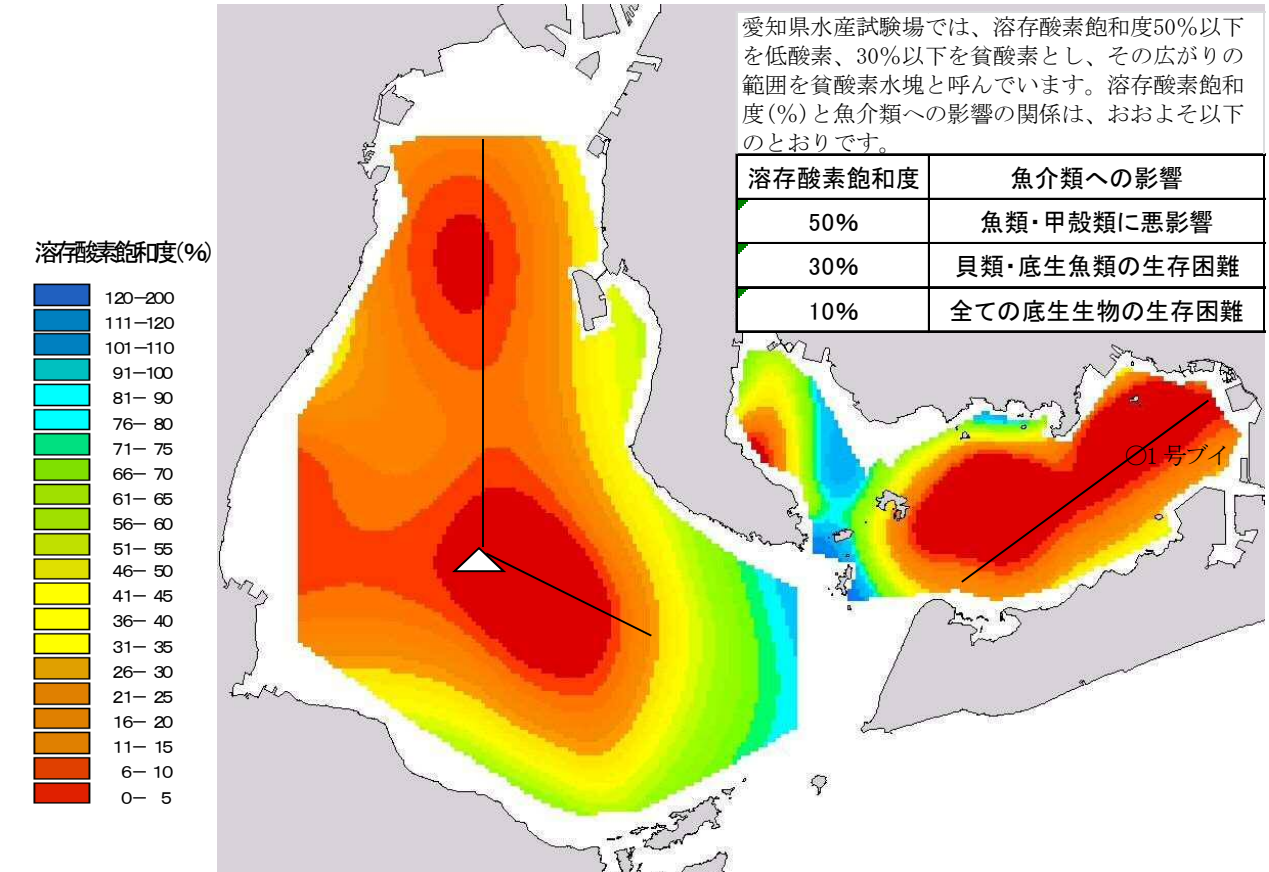


図1 伊勢湾(7月25、26日)・三河湾(7月25日)底層の溶存酸素飽和度の分布(上図)及び上図直線部分の鉛直分布(下図)(愛知県「海幸丸」「へいわ」)

伊勢湾

7月25、26日の調査結果を図1に示しました。前回調査(7月10日)に比べて、貧酸素水塊の範囲がやや拡大していました(図1)。

気象庁が26日に発表した週間予報では、気温は平年並みから高めで経過するようになっており、今後も表層水温が上昇することから、躍層が維持され海水の上下混合が起きにくくなると予想されます。このため、貧酸素水塊の規模が大きいまま維持され、溶存酸素飽和度10%以下の海域がさらに拡大すると考えられます。

表1 調査時の水温・塩分

	水温(°C)	塩分
表層	26.2~28.5	25.2~31.5
底層	16.6~22.1	32.2~33.6

三河湾

7月25日の調査結果を図1に示しました。前回調査(7月11日)では渥美湾奥部で貧酸素水塊が確認されましたが、今回の調査では湾奥部から湾口部まで拡大していました。知多湾では、西寄りに貧酸素水塊が確認されました(図1)。

自動観測1号ブイ(図1:蒲郡沖)のデータを見ると、海底から5mの位置まで貧酸素水塊が発達している様子が観測されています(図2)。

今後は、表層の水温上昇にともなう成層の発達により、海水の上下混合が起きにくくなるため、渥美湾では貧酸素水塊の規模が大きいまま維持され、知多湾では拡大すると考えられます。

表2 調査時の水温・塩分

	水温(°C)	塩分
表層	25.9~30.7	26.6~32.2
底層	20.8~26.1	31.4~33.2

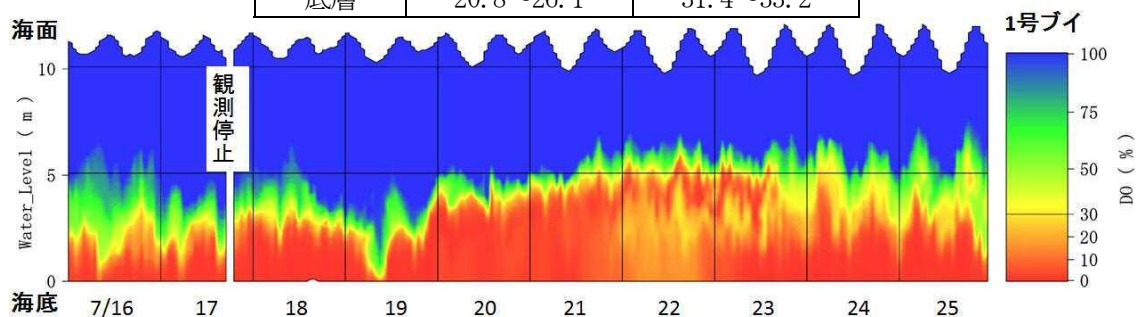


図2 溶存酸素飽和度(DO)の経時変化(自動観測1号ブイ)

参考

前回調査時の底層の溶存酸素状況

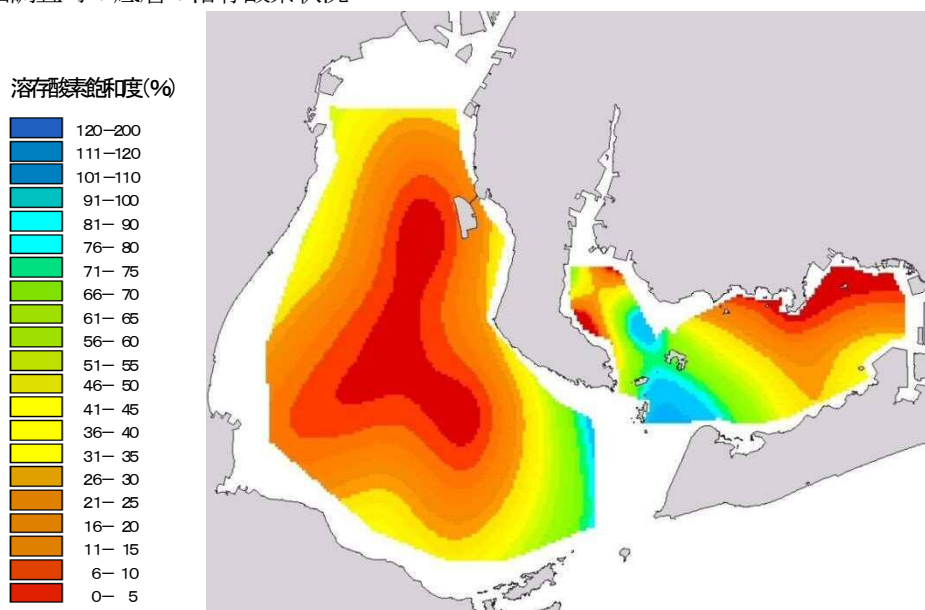


図3 平成29年7月10日(伊勢湾)、7月11日(三河湾)